

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	まんてん東淀川菅原教室			
○保護者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 1日 ～ 2025年 3月 20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の特性に合わせたSSTプログラムを考え、取り組んでいる。	・個別指導計画をふまえ、本人の特性やペースを考え、日々のSSTプログラムを計画している。 ・遊びの中に取り組み、子どもたちが楽しみながらできるように工夫している。	・支援が偏ったり、マンネリ化しないように立案者は他のスタッフのアイデアや意見を聞ける機会を定期的に設けている。
2	子どもの活動スペースを広く取り、こどもたちがゆったり過ごせるスペースを確保している。	・子どもたちの活動の妨げにならないように、整理整頓や配置に気を配っている。	・常に活動の妨げになっていないかを確認しつつ、問題があればすぐに改善できるように行動する。

3	利用者、保護者とのやり取りを密に行い、必要に応じて相談支援事業所と連携を取っている。	・保護者や利用者、そのほかの関係機関などから上がってきた相談や意見などは、他の職員にも共有し適切な支援ができるように心がけている。 また必要に応じて増段支援事業所とも情報を共有している。	・今後もよりいっそう保護者や利用者が相談しやすいよう、定期的に場を作ったり、様子に気付けるよう配慮していく。 ・また関係機関とも協力しやすいように、コミュニケーションを強化していく。
---	--	--	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・情報発信	・現在SNS等、情報を発信するツールを使用していない	・職員が発信しやすいSNSを検討し、取り入れていく
2	・地域や外部との交流が少ない	・日々の支援などで、外部との交流などの準備や計画をする余裕がない	・日々の活動のなかで短時間組み込めるボランティアなど検討し計画に入れていく。
3			